

「あなたが学生生活で欲しいITサービスはなんですか」

質問

① 以下から、あなたのアイデアのジャンルを選んでください。

1インターネットWeb 2 通信インフラ 3 ソフトウェア 4 ハードウェア 5 情報処理サービス 6 その他

② あなたが学生生活の中で欲しいと思うITサービスの概要を教えてください。

③ そのアイデアを考えた背景を教えてください。

④ そのアイデアの効果と課題点をあげてください。

⑤ その他、スライド等が場合はURL(google drive等)を添付してください。また補足事項(市場分析・参考資料など)がある場合自由に記述してください(任意)

アイデア例

① 以下から、あなたのアイデアのジャンルを選んでください。

(1)インターネットWeb (2)通信インフラ (3)ソフトウェア (4)ハードウェア (5)その他

(1)インターネットWeb

② あなたが学生生活の中で欲しいと思うITサービスの概要を教えてください。

「バーチャル カレッジ キャンパス(仮想大学空間)」

...さまざまな大学の授業を聞き、世界中の学生や研究者とコミュニケーションを取れる空間の提供。海外の大学の授業を聞くことができるサービスはすでにあるが、これはあくまでも知識の充足という意味合いが強く、仲間と研究内容を語り合うという大学の醍醐味を味わうことができない。バーチャル空間ならではの、空間的距離や教室の容積に縛られない特性を活かし、アバターなどを利用して対面しているかの如く話したり、時には新しい事業を生み出したりできるオープンな空間の提供を目的とする。

使用にあたっては、メタバース空間を利用する。具体的には以下のような機能を考えた。

1大学のアカウントによる入場許可

アカウント乱立による秩序の崩壊を防ぐため、実際の大学のアカウントによる入場とする。サービス内での入試の実施はトラブルを引き起こしかねないので外注方式をとる。

2自室と書斎

考えをまとめたり、連絡先を管理したりする部屋。集中できるようにカスタマイズが可能。また、書齋が併設されており、サブスクリプションプランに応じて図書館のように書籍を読める。プロフィールの設定を変更したりできる。

3 教室

当該サービスに登録してある世界中の大学の授業が受けられる。予約制で双方向に受けられる。

4 中庭

オンライン中のアバターが集まる。世界中の学生や研究者とチャットできる。研究仲間を探したり、雑談したりできる。言語は初期設定言語に同時翻訳する。

5 掲示板

さまざまなアイデアや疑問を書き込める。書いた人にコンタクトをとって、プロジェクトを一緒に立ち上げたりできるようにする。

価格設定としては、年間定額制で、多くの大学に授業料を払えるが、一般的な学生が自分の大学の学費を払っても少し頑張れば払える程度を想定している。中庭や掲示板は無料であり、書齋の本は買い切り型とする。

③ そのアイデアを考えた背景を教えてください。

私は今までの授業のほとんどをオンラインで受けてきた。その中で、大学(学校)の機能は、

- ・授業を通して専門知識を得る
- ・自分と異なる考え方をする他者と活動して全般的な価値観を広げる

という2点に集約できるのではないかと思った。

前者については、本人次第で実際にオンラインでも対面と遜色ない効果が得られる。むしろ、スライドを鮮明に見れ、挙手機能は誰でも簡単に発言できる。オンデマンドでも自分の理解に沿って止めたり戻したりしながら見ることができる。さらに、これがオンラインならば、日本にいながら海外の授業を受けることも技術上可能である。感染症予防のような理由がなくとも、オンライン授業は、運用によっては知識の可能性を広げる良いツールとなりうるため、多くの学生からニーズがあると思われる。

後者については、少なくともコロナ禍において、オンラインでの交流には障壁があったように思われる。一つは、「偶然の出会いが少ない」という点である。価値観の合う仲間との出会いは、人と会う回数を増やすことでより確率を上げることができるだろう。一方で例えば、Twitterから友達になるというような場合もあるようにオンラインならではの出会い方もある。今回は「中庭」と「掲示板」によってこのような出会いの試行回数の増加を試みた。

④ そのアイデアの効果と課題点をあげてください。

効果

効果は、自分の興味に合わせて本当に興味ある分野の勉強を地域によらずできることである。そして、同じものに興味がある人と話せる機会を広く持つことでグローバルな新しい価値観を創出できることを期待できる。

課題

一つはアカウントの乱立による秩序の乱れである。言論の自由は守られるべきだが、同時に多くの人が心地よく使えるサービスとなることが重要だと考える。トラブルが起こった時にできる通報・離脱システム、サポートセンターの充実、価格自体を上げて質を守り、人数次第では、プランと学力によりある程度制限をかける可能性もある。

技術的な課題点としては、基本構造は、既存の技術とメタバースを応用すれば作れるサービスである。しかし、ここに、例えば世界中の人と話せるような同時翻訳技術や、メタ空間を作るハードウェアの開発などを足すと、かなり大掛かりなプロジェクトとなると思われる。これを支えるだけのユーザー数を持たなくてはならないので、多くの大学に登録してもらい営業力も必要と予測される。

⑤ その他、スライド等が場合はURL(**google drive**等)を添付してください。また補足事項(市場分析・参考資料など)がある場合自由に記述してください(任意)